

## 令和5年度 第1回総合教育会議

令和5年6月14日

14:30~15:20

甲良町公民館会議室

### 1 出席者

野瀬町長、中村総務課長、総務課担当職員2名  
青山教育長、尾崎委員、藤委員、新家委員、大野教育次長

### 2 次第

- ・教育大綱について
- ・町長からの行政報告等
- ・その他

### 3 議事概要

#### 【中村総務課長】

ただいまから令和5年度第1回の総合教育会議を開催させていただきます。私、総務課長の中村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、事前に送付しております次第に基づいて進めさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最初に、野瀬町長より御挨拶申し上げます。

#### 【野瀬町長】

皆さん、こんにちは。本日は第1回の甲良町総合教育会議に御参集いただきまして大変ありがとうございます。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4でございますが、「地方公共団体の長は、大綱の策定に関する協議及び次に掲げる事項についての協議並びにこれらに関する次項各号に掲げる構成員の事務の調整を行うため、総合教育会議を設けるものとする」ということで、町長が招集をした会議でございます。順次協議事項について進行させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【中村総務課長】

ありがとうございます。

本日でございますが、日下委員につきましては事情により欠席ということになりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、以降の進行でございますが、先ほど町長の挨拶にもありましたように、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第1条4に基づきまして、町長が本会議の設置者ということになりますので、会議の進行につきましては、野瀬町長のほうに本進行をお

願いたいと思います。よろしく申し上げます。

【野瀬町長】

それでは、私のほうで進行をさせていただきます。この教育総合会議については、大綱の策定というのが大きな教育会議の中身であります。教育大綱につきましては町長が協議をして定めるということになっておりますので、教育長から提案説明をしていただきますので、どうぞよろしく申し上げます。

【青山教育長】

失礼します。ありがとうございます。

私のほうからの教育大綱の元を説明させていただきますけども、お手元のほうに、1番、甲良町教育大綱の位置づけというのが載っておりますけども、本町の教育の根本をなすものであります。第4次甲良町総合計画の中に教育に関する内容も入っています。今日この場で議論していただきまして、甲良町の教育についての位置づけ、進める方向について議論していただきたいと思います。

2番の大綱の実施期間ということで、今年度変えています。前年度については、何年度までという形で期限が切られていました。私としては、随時いろんな施策を今後やっていく中で、一回一回変えていくのは大変なので、随時、適宜変えていくという文言にさせていただいて、大綱を元に実施していくという考え方でありますので、期限は切っておりません。

次の3番の甲良町の目指す教育というのについても、簡単に甲良町の教育をこういうふうに目指したいということでまとめましたので、書いてあるとおりコンパクトにさせていただきます。知・徳・体の調和の取れた心豊かでたくましい人間に育つよう、確かな学力で生きる力を育む子供を目指しますと。1番に、命、人権を大切にする心の育成、2番に基礎学力の定着、3番にICT教育の推進、4番、仲間づくり、5番に教職員の指導力向上というこの5点を目指す教育ということで目標としています。

方針ですが、今の目標に向けて、こういう方針でやっていこうということで設定をしています。5点あります。1番、知・徳・体の調和の取れた心豊かでたくましい、明日の甲良の担い手の育成を目指します。2番、生涯を通じ、自ら学習して自己を高め、生きがいのある充実した人生が送れるようなひとづくりを目指します。3番、自然や生命を大切に、健康で明るく活力に満ちたひとづくりを目指します。4番、人権を尊重し、連帯とふれあいのある学校・家庭・まちづくりを目指します。5番、甲良の歴史と伝統を生かし、豊かな情操と創造性を育む文化のかおり高いまちづくりを目指しますというこの方針5つです。

基本目標については、まず就学前の目標と、それから、学校の教育目標と社会教育目標と文化振興の目標というこの4点についてまとめさせていただきます。

まず、1点目の就学前教育の目標ということで、1ページの下の方から、「また」以降のところ、学習環境を整備し、子供たちの学習習慣の定着の基礎づくりを行いますとい

うことで、就学前の子どもたちについて、やっぱり学習ということを念頭に置いて園の保育をやっていく必要がある。また、この学習環境整備というのは、やはり今の園自体が、これは今年度でありませぬけども、今後考えていくべきであるのは、建物自体がやはり老朽化している部分があり、環境面でももう少し考えていく必要があると思っていますし、保育士が現状足りない状況があります。今も随時募集しておりますが、やはり園のほうの指導員の保育士、指導員の充実というのを私自身は何とかしたいなど。今も委託で、京都のほうの人材派遣の保育士の人材派遣センターをお願いして保育士を確保しようという試みもしていますけども、なかなか来てもらえない状況があり、来ていただいても定着できず辞めておられる方もあるので、随時募集しながら人を確保したいと。令和6年度の配置についても今から手を打っていくということで、いろんな大学等にも声をかけたりしたりしています。

また、後半に書いていますが、園もやはり子育て世代のお母さんの悩みとか、やはりいろんなことがありますので、町で配置していますSSW、スクールソーシャルワーカー、これは基本的には小中なんですけども、この方たちに相談活動をしていただくということも随時やっています。

それからまた、昨年度から臨床心理士の職員を支援センターのほうに配置しましたので、発達面でのお子さんの検査といったこともやっています。

次の2点目の学校教育については、小中学校で一番多感な子供たちの成長する時期だと思います。大体6歳から15歳までの9か年なんですけども、ここで将来何か町に貢献できるような子供たちをつくりたいという考えはずっと持っており、いろんな行事等が、コロナでできませんでした。この3年ほど。今年度は各小中学校等も行事については予定どおりやっつこうと考えていますが、あまり学校の負担にならないようにということも考えながら実施をしている状況です。

次に、学習環境整備ということで、子どもたちの学習習慣の定着ということで、いろんな施策をしていますけども、特にやっぱり中学校になると学力の問題があります。子供たちの様子を見てみると、漢字検定を全校挙げてやっていたり、今度英語検定も学年で、全員で受けさそうというような声も上がっているようなので、それについても補助はしてきますが、そういう機運を高めたいなと思っています。先ほど言いましたように、同じようにSSWやスクールカウンセラーも、今県のほうで配置していただいている方が1名おられて、その方が東小に席を置いて、中学校を回っていただく、西も回っていただく形で、スクールカウンセラーを1名、配置いただいています。SSWは、先ほどの園のほうでも言いました方が5校園、ずっと回っていただいているという状況です。

あと、社会教育については、そこに書いてあるとおりですけども、やっぱり生涯学習という視点を持っていく必要があると考えています。甲良町としてはまだまだできてない部分がありますが、教育委員会としては、今、甲良町の教育改革検討委員会を立ち上げていますが、その中でもやはり生涯学習という形で何かできないかということも議論いた

だいているところであり、何か地域と一緒に学校、園が取り組めないかなということも今後考えていきたいなと思っています。

それから、町長部局では集落の村づくりについてもいろいろ検討していただいていますので、コミュニティーということで、基本的にはやはり各集落の公民館等が中心になってくると思いますけども、大きな範囲では、東学区、長寺センターを起点に、西学区は呉竹センターを起点にということで、これらを中心に今後教育施策を行っていきたいと思っています。

それから、文化振興の基本目標を掲げていますが、三大偉人が甲良町におられます。さらにいろんな文化財等もありますので、これらを皆さんに発信していきたいなと思いますし、また、図書館のほうもいろんな施策をしていただいています。これも検討委員会の中で出ていたんですが、図書館にいい絵本がたくさんあるので、そこを子供たちにもっと活用してほしいなということがありました。今後さらに学校と連携して、子供たちが図書館を身近に感じられるような、そんなことができればなと思っています。

それから、三大偉人の1つとして、藤堂高虎についてですが、教育委員会に知見の深い職員がおり、中学校の2年生で歴史を学びますので、ちょうどそのタイミングで藤堂高虎の説明を去年からしてもらっています。これは今後も続けていきたいと考えています。今後、ほかの三大偉人さんについても検討しております。

以上で私の説明を終わらせていただきたいと思います。

#### 【野瀬町長】

ありがとうございます。

それでは、教育大綱につきまして、適宜改正をするという、今までは3年計画であったり、その見直しが周年で行われていましたが、毎年毎年見直しをしながら、よりいいものという教育長の趣旨でありました。ただいま、中身の濃い内容をコンパクトに御説明いただきましたので、御質問等がありましたら御意見をいただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。どの点からでも結構ですし、もう少し補足的に説明をということでも結構です。

よろしいですか。

#### 【教育委員】

教育改革検討委員会はどのような進捗か。

#### 【青山教育長】

今2回終わりました。第1回目は、最初ですので、委員の自己紹介と、こういう思いでここに参加しているというような意気込みみたいな話をさせていただき、その中で、私のほうから、甲良町の現状ということで、私自身がこういうのを懸念しているというので3点挙げさせていただきました。1点は保護者、特に就学前の若い保護者に、教育に目を向けてほしいというのが1つ。それから、やっぱり子供たちの学力の場、勉強する場の整備はしてあげたい。それと、やっぱりあとは地域の中で相談できる場所、親が、保護者が。

そういう場が欲しい。これら課題として、3つ挙げて、これについて今後検討してもらいたいと考えています。

この中で出た意見は、先ほども言いましたけど、やっぱり実際学力ってどうやってつけるのかという話になって、ただ単に、勉強勉強というてやらせても難しいのではないか、やっぱり親の姿勢が大事でないかと。1番目に言ったような内容です。親を変える必要がある。親を変えるには親にやっぱり子供の教育を、0歳児からこういうことをしていったらいいよというアドバイスがもっとできないといけないという話が出てきて、1つはやっぱり絵本とかの読み聞かせとか、そのような活動を家でどれだけしているのだろうかという話になって、私も一昨年か、園のほうに行って話を保護者にさせてもらったこともあるんですけど、こういうのは大事ですよということは、スキンシップであったり、また声かけであったり、子供さんをほったらかしにしてスマホだけ与えておいて、あとは知らんふりでは困るので、そういう話をしたんです。今の話もしました。やっぱり本に親しむ。やっぱり親がそういう方向を向かないと、子供はできない。親はどっちかいうたらスマホを与えておいて、小さい子でもスマホを持っていますよね。いじくっているんですね。与えたら、もう親は子どもが何も言わんと遊んでおるので手をかけない。

これではよくないということで、学校の現状であるスマホの所持率はどんなもんかというのを、そういうのもアンケートを取っているんですよ。そしたら、小学校で大体持っている子は学校へ持ってこない子も含めて、8割、小学校高学年で。中学校では100%です、甲良町。その現状を話したりしていて、一番困るのは、スマホや携帯を持っていて、その所持率が高い上に、中学生では、その使い方が、平日で3時間以上、4時間以上がかなり多いという集計が出ている。そういう話もさせてもらったんです。使い方の約束を決めているかという項目では、約束を決めているのはほとんどいない。ほかの市町では、約束して持っているという家庭が比較的多い。いろんなトラブルも今も起こってきていますし、今後起きてくると思うんですけども、やっぱり心配なことはあります。

それで、図書館をもっと有効に使って本に親しめないかというような意見もありました。ある委員さんは、町の図書館は、司書がいて運営していただいているが、学校の図書室ではどうかと質問されました。学校では司書は教諭がやっており専任での運営は学校ではできていない状況なんです。委員さんはそれを踏まえて、学校に司書を置いたらいいのではないかという意見もいただいていたんです。

あと、今度アンケートを親向けに、子育ての悩み、不安、どんなものがあるかというのを、簡単なアンケートをさせてもらう。来週月曜日ぐらいに各こども園に在園しているお母さん、お父さん、保護者の方に配布します。大体全部で170名ぐらいになると思うんですけど、その結果を見て、今度第3回の検討委員会で論議したいなと思います。

長くなりましたが、以上です。

#### 【教育委員】

検討委員会のメンバーはどのような方か。

【青山教育長】

10人。大学教授さん、佛教大学の教育学部の先生1名、教育関係の教諭または元教諭2人、小学校2つと中学校の学校運営協議会の代表者が1名ずつで3名。それから、こども園が2つありますので、こども園の保護者代表になっておられる方が2人、そして、公募で2人来ていただいたので、10名です。

【野瀬町長】

よろしいでしょうか。

【教育委員】

はい。

【野瀬町長】

ほかはいかがでしょうか。

【教育委員】

公文を活用した学習の場を検討していたと思いますがこの件はどうでしょうか。

【青山教育長】

それは今ストップしています。昨年度は、公文も1つの案として、どのようなことができるのか考えてきたが、やっぱり公文ありきで考えるのはよくないのではないかという意見もあった。ほかにも塾があるので。教育改革検討委員会の中でも塾を立ち上げたらという意見があった。第1回の中で、どういうふうにしたらいいかという具体的などはまだ論議できていないので、今のところ、まずは今言いましたアンケートで、各親、保護者が思っておられる不安、悩みをまず集約していこうと。その中で、将来の学力の不安があれば、それに対して、じゃ、何をしようかという段取りをしていこうということで、公文の話は今ストップしています。

検討委員会のほうは、大体2か月に1回という思いでしていたんですが、最初の段階でするので、5月もやり、6月もやり、7月もやり、毎月やることになっているんですよ。最初なので、今は論議、いろんな話をしていく必要があると思っているので、ちょっと詰めてやっています。

【野瀬町長】

ありがとうございます。ほかのテーマで何か御意見等はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、教育長から要点を絞って教育大綱を説明いただきましたので、毎年こうやって確認をしながら教育の基本を御承知いただくというここに、確認をしていきたいと思っております。

それでは、原案のとおり御了解といたしますか、改定について御了解いただけますでしょうか。よろしいでしょうか。(意見なし)

それでは、令和5年度の教育大綱についてはこの形で進めさせていただきと思っておりますのでよろしく願いいたします。

それでは、レジュメの3番に移ります。毎年この会議で町長から話題提供をさせてもらっています。

今日の資料は、今年の4月28日に役場の新任職員、新しく採用させていただいた職員の研修に私が冒頭でしゃべるといふ時間をいただきましたので、私はまちづくりの根本、原点をお話させていただきました。教育、行政が連携を取りながら、特に今、教育長が申された教育については重点施策として取り組んでいきたいということを思っているところであり、それで、私が町長になって、5年半を経過し、甲良のまちづくりはこういうふうに進めていきたいという、思っていたことを改めて職員研修で、少しお伝えしました。ただ、考えた以上に、私の考えを述べさせていただくと時間がかかったので、今日は30分ぐらい時間をいただいてというふうに思っていたんですが、時間が押してまいりましたので、できるだけコンパクトにお話させていただきたいと思います。

それでは、職員研修のレジュメを御覧いただきまして、まずは甲良町のまちづくり。1番、甲良町のまちづくりの基調ということで、平成15年4月1日施行で甲良町まちづくり条例というのがあります。平成15年ですから、今年20年を迎えるということですが、1つは人権尊重のまちづくり、昨年、令和4年の3月に、甲良町人権施策推進基本計画という基本計画を見直し改定しました。いわゆる議会でも質問されたりしますが、同和問題をはじめとする、あらゆる差別をなくしていこうという「同和問題をはじめとする」枕言葉はもうやめたらどうかということがありますが、先ほど教育長がおっしゃいました呉竹地域総合センター長、長寺地域総合センターを核にしたまちづくり、あるいは部落差別の歴史を考えたときに、また、旧同和地区の混在率は全国の町で2番目に高い町でありますので、その歴史を忘れることなく、他の人権問題についても甲良は考えるという、この基調が基本だという人権尊重のまちづくりであります。

それから、住民参加のまちづくりでございます。華々しく10年、20年前はむらづくり委員会の活動があったんですが、ハード整備が終わって、ソフトへのチェンジをして、何を村づくりのメインとしてやっていくのかということになっております。当然団体自治として役場職員が必死になって住民福祉の増進に向けた活動をするということと、もう1点は、忘れてはならないのは、住民自治、住民が主役のまちづくりは、やっぱり住民も行政事務あるいは自治事務に参画をするというこのテーマを今後ソフト施策でどう深めていくかが今私たちの甲良町の課題であると思っておりますのでございます。まちづくり条例の前文には、「住民こそ主役のまちづくり」という、そういう表記が書かれておりますので、これこそ行政職員が地域住民さんと一緒になって、課題であるまちづくりを動かしているという原動力になってしかるべきだと思っております。

それから、次は(1)法令、計画準拠の日常業務と書いていますので、先ほど教育長も示されました第4次の総合計画を見ていただきたいと思いますが、行政事務はどこでも一緒ですが、業者に委託をして、計画ばかりつくっているということも言われるんですが、5ページと書いています。地方自治法に基づいた第4次の甲良町総合計画、これは文章

にも書いていますが、町の最上位計画に位置づけられています。そして、各個別計画という個別法に基づいた計画になります。書いていないですが、甲良町国土利用計画、それから、甲良町都市計画マスタープラン、もう1つ、土地利用のプランの中では農業振興地域整備計画、これが土地利用の3計画でありますし、その上に総合計画がありまして、甲良町の土地利用計画は3段階積みと言われて、総合計画があつて、国土利用計画があつて、農振があつて、都市マスがあるということで、規制をしています。私の田んぼやのに何で農地転用できないのかという問題がこれまでよく言われてきました。田んぼを埋めて家を建てたら人口も増えるのではないかということでもあります。長い将来、特に、農振計画という計画は、農業振興のための圃場整備をやった農地は、むやみやたらに農地転用できませんという、青色の塗った図面のところは、そう簡単には農地転用できない。白色が塗ってある地図のところは、所定の農業委員会手続をすれば転用は可能であるということでもあります。それを守り過ぎだということをやられています。今短期的にやるのか、将来に向けた土地利用がいいのか、両面なんです。甲良の農村景観、せせらぎ遊園の水辺空間は、そういう基調に立って、どの町にも負けない水辺空間を持っているんですけど、住宅が建たないという、そういう規制が張られているのは、公規制、こういう計画に基づいてやっていると。全ての計画がそういう計画になっております。

もう1つ言わせていただくと、右側に湖東定住自立圏共生ビジョンと書いていますが、これも1市4町が連携をしてまちづくりを進めるという、そういう計画であります。したがって、彦根市が中心市として、事務局機能、あるいは、全ての施策の中心都市とした、事務局機能ということをはっきりとやらうと。そして、4町についても共同して広域圏域のまちづくりを進めるということで、今大きなテーマは、新たなごみ処理場をどう構築するかということでございます。近畿で初めての計画でありますし、それが全国で4番目に早かったんです。その早さを軸に1市4町がまとまってということでもあります。なかなか1市4町、広域行政が一枚岩になってうまくいっているかということ、そうではありませんので、我々市長、町長が重点施策を、もう少し施策検討するということを提案し、今後圏域共同の進める事業も重要視して、圏域で進めること、それから、県の行政で進めること、私たち甲良町で進めることという、そういうすみ分けの中で行政がうまく回るというのがこの図表でございます。

それから、次は、序章と書いてあるんですけど、これは、北落はむらづくり委員会で、年次が切れないように集落計画を立てております。第3次の集落計画、いわゆる村の総合計画みたいなことの寄稿をさせていただいて、扉に私のことを載せさせていただきました。このことが、字でも、まちづくりの実践活動をやり、そのことが13集落、甲良町での私のまちづくりの根本原理やという基調的なことを書かせていただきましたので、時間がなくなったら終わりますが、これはここで改めて披露させていただいて、私が目指す甲良のまちづくりの根幹というのを、そんな大層なものではないんですけど、私の指針というか、心に決めた内容を文字に書きました。

私は戦後の団塊世代のすぐ後の誕生日で北落には男9人、女6人、15人の同級生がいた。



うじゃうじゃ子供がいた時代。物はなかったけど、よき時代に生きさせてもらったと実感しております。皆さんの御支援をいただき、おかげさまで町長職に就かせてもらっています。北落に生まれたからこそ、北落モデルの「みんなでまちづくり」を貫きたいと思っています。北落という集落は子供を中心とした、甲良町で一番行事の多い集落、何でこんな多くの行事をしないとイケないのかと言われるほど行事の多い集落でございます。それをあまり減らさずに、模様を変えながらやっていけたらいいかなというふうに思っています。

戦後を支えた昭和1桁の人が非常に今の時代の骨格を築いてもらったというのを実感しております。戦後から安定した今次を迎えさせていただいたのは昭和1桁生まれた人たちのど真剣さを忘れてはなりません。その人たちは、生業を持ちながら、字のことを自分のことのように優先されていた。お寺のこと、お宮さんのこと。北落は山を持っています。区有林保全活動につながっています。総寄り、今のスタイルではなくて、昔の人に聞くと、神さんの前で氏子として心を浄化して意を決する。ですから、話がつれてくると、「神さん見てはんで」という、大同一致で、大同団結という、そういう決定の仕方があったということも聞いています。この時代があったからこそ圃場整備で水利が、字、公共施設が整い、不自由さがない日常を過ごさせてもらっています。役逃れ、責任逃れ、それでもいいのですか。

2つ、連綿と続いてきた歴史。人類の歴史は地球誕生の歴史からするとほんの短時です。日本を見ると、明治時代から150年の間に急速に人口が増え、インフラ整備が整い、物が豊かになり過ぎたことによって経済至上主義に悩ましさを抱え、近年を恐るべき自然災害の猛威がいつ襲いかかってくるかもしれない不安に駆られています。科学技術力によって豊かさを享受してきましたが、自然と共生することを忘れ、開発の名において自然を傷めつけてきたしっぺ返しにまだ気づいていないことが問題だと思います。今次では地球温暖化、台風も巨大化しましたし、目指す方向は、カーボンニュートラルという方向を目指しておりますが、依然、火力発電所、CO2削減をどう目指すかというのがテーマだと。他人事と捉えるのではなく、自然の反作用だと、自分自身が反省をし、他の動植物と同じように自然の中で慎ましく生きる人類でなければ生きながらえられません。開発というのは、よく海外から視察研修にされたテーマは、何々開発についてということを書かれておりますが、今言いましたインフラの社会資本整備のインフラ開発だけではなくて、もともといい意味がありまして、本来はよい社会を、よい人育てるという広い意味での開発という言葉であります。

3つ目、北落の将来を憂うからこそ、子供たちが群れて遊ぶ姿が見えなくなりました。大家族の世帯構成でなく、お年寄り家庭も増えています。私が子供のときは6大家族、おじいちゃん、おばあちゃん、両親、それから子供が2人という6大家族であったんですが、今は3大家族になっています。他人事ではありません。空家もまだまだ増えそうです。でも、新築住宅、移住者も北落には来られています。北落は縄文上期から人が住み着き、4500年余りにわたる歴史があります。北落に生きる私たちが今こそ課題を浮き彫りにして、対策を練り上げ、実践を積み上げなければなりません。そんな簡単なことではありません。幸いこの補助機関にむらづくり委員会があります。専門家の方、大学の先生、学生調査の力を借り

るなどして、今次の計画をもとに一つ一つ積み上げる日常活動こそ重要です。職員の皆様のお力が必要です。御協力お願いいたします。

4つ目、魅力ある集落づくりを展望するというテーマです。御住職が数年前の敬老会で法話をされました。大事なことは、簡素化の名において、今まで続けてきた伝統や行事を廃止することは自らの身を削る結果になり、取り返しがつかなくなることです。北落ならでは多くの年間行事を謳歌し、楽しみながら行事を続け、参加をする継続の力を大切にしましょう。家族団らんの大切さ。仏様、氏神様に御加護をいただいて、趣味と得意技を身につけよう。北落の子は北落で育てよう。北落到住んでいるからこそ、住み心地のよい村にしよう。分かり合う相互理解、認め合う相互関与。人の悪口は言いますが、許すという領域の広さは少し欠けているのではないかと。友好の増進を図ることに心がけ、支え、助け合う、わくわく感のある楽しい村をみんなで築きましょう。

といいながら、子供が少なくなって、人口が減って、お年寄りはそれなりの数がいらっしゃるとい時代になっていますので、これは北落もそうですし、各字もそうですし、その度合いは各字によって違いますし、法養寺も子供がいない限界集落という集落の様相になってきていますので、私が大事だと思うのは、そういう実態をつぶさに、客観的に見てもらう大学の機関なりコンサル機関なりで、客観的なデータを基にして、我々はどうするんだということを考えるほうがいいのかというふうに思っております。

それで、次は農工大学の中島教授です。千賀先生の研究室の先生で、もともと大津の出身の方で、今、東京農工大学で千賀研究室を受け継いで、教授で仕事をされています。3年間集落実態調査をやっていただきました。ただ、4年目に入りまして、昨年度、もう集落調査の予算づけができなくなりまして、東京農工大学とは縁が切れました。今は摂南大学という大阪の大学に入ってもらって、いろんな調査を始めかけてもらっています。ですけど、中島先生にも、お断りしますと言ったら、お金の切れ目が縁の切れ目じゃないというので、今言いました法養寺の集落と、大きな集落で子供があまりいないとか、子供の数の激減している下之郷集落に、学生調査を含め、年に数回、中島先生に入ってください、ボランティアで調査研究を進めてもらっているという先生です。

次のページを御覧いただいて、ポイントは12ページで書いているところです。9行目を御覧いただいて、13集落それぞれの実情に目を向けてみると、親水施設の利用、管理の状況に差異が見られるなどといった水環境整備事業導入後の集落格差、集落間格差に加えて、代々継承してきた集落行事の廃止や縮小を余儀なくされているなど、言わば集落の持続、存続に関わる本質的問題も抱えるようになっていました。しかしながら、これらの諸問題を抱えること自体、何ら悲観的に思う必要はありません。長年にわたりまちづくりを頑張ってきた証であり、言わば選ばれし先進地の名誉ある勤続疲労、ちょっと当て字になっていますが、勤続疲労だと私は思っています。ということで、一時期そういう時期を迎えるので、さらに蓄積した過去の経験について第2ステップに移せばどうでしょう。

それで、13ページは、周期的に見たまちづくりの概念で、こういう繰り返し繰り返しの

点検活動をしながら、1周期目、ここで止まっていると。村づくりをやった人、私らがやったけど、次の世代、そんなもんでできるかいなということではなくて、次の世代も同じ課題をこういうふうに、2周期目、同じことを点検、整理、課題、問題について点検しながらやるというのが今後の甲良のまちづくりの大きな歩みであり、ヒントですよという、そんなまとめをしてくださいました。

あと、そこで、レジュメに返っていただきまして、2番、まちづくりのポリシーは今述べたとおりです。

3番、農工大学の先生も言いました。千賀先生が来られたときに、3つの間が大事やということをよく言われました。それは何かというと、時間、空間、そして、何かとみんなに聞かれたんですが、3つ目は仲間だという、間の3つ目だということを言われます。

いろいろ単純なことを書きましたが、なかなかこれは意味の深いことだと最近思っているのは、寛容とか言いましたけど、友好であったり、連帯であったり、人権であったり、平和であったり、よりいろんな人と仲よくする、あるいは、手を結ぶ。国でいうと外で、戦争でない平和な外交をするということが仲間づくり。いい仲間ができればそんなことをしないのではないかという、大きな意味では、そんなことを思っていますし、先ほど教育長が甲良三大偉人について言われました。今年は、尼子一族の5年に1回の全国大集合が行われます。甲良は幸い三大偉人を核として、いろんな交流地域があります。いろんな地域と仲よくして、いろんな地域のよさを学ぶということも非常に大事な事かなと思っていますので、千賀先生の言葉はしみじみかみ締めると味があるものだなということをおもっています。

それから、4番ですが、地域の特徴を伸長させる。水と緑と歴史、文化、三大偉人。教育長がおっしゃっていただいたとおりであります。今後の甲良町のまちづくりの根幹の2本柱が、こういう地域特性を生かしたまちづくりを日常の行政事務とともに、重点として力を入れてやっていると、将来にわたっていいまちづくりができるのではないかと考えています。ただただ、目標であって、では具体をどうするんやというのは、我々行政に携わっている人間が縁の下の力持ちで、住民を主役にするために、こういう方法はどうでしょうかとか、こういう方法と一緒にやりませんかという、パソコンに向かった行政事務だけではなくて、住民と共にまちをつくり上げる行政施策も大事だなというふうに思っています。それは、当面、私は5つの重点、重要施策だと言っておりますし、教育委員会、教育長の取組の中では家庭支援、子育てが1本柱、2つ目は子供の学力。今その取組を重点的に進めてもらおうとしております。私のほうでは、町民の健康づくり、それから、地域福祉活動の集落支援、サロン、サロンと言って任せておくではなくて、福祉の時代、高齢者の時代をよりよく生き抜くためにはどういう支援が必要かということ地域住民に投げかけ、一緒にやるという、住民こそ主役のという、最初に言いましたが、この言葉を、行政事務をつかさどる行政職員が今少し力を入れなければならないと思っています。

もう1つは集落コミュニティの活性化。集落の活動をどうするか。これは、今、甲良は過疎の町になりましたので、過疎の町になれば、関係省庁の行政施策も、過疎法に適用して

いろいろな施策が使えるということでもありますので、モデル的な取組も含めて、今掲げた目標が前に少しずつ進んでいければと思っています。

気持ちだけの今日はお話になりましたが、町長はそういう気持ちで町長になり。まちづくりを進めています。もっともっと職員と一緒に共有したり、あるいは、議会と調整をし、うまく行政事務が進むように今後はさらに努力をしなければならないと思います。

以上でございます。

思いだけを述べましたので、質問はまたの機会にさせていただければありがたいと思います。

それでは、その他、事務局、何かありますか。

教育委員の皆さんからその他で何か御発言はございますか。

よろしいか。

ないようでしたら、一旦事務局へお戻ししますので、よろしくお願いします。

**【中村総務課長】**

ありがとうございました。

これで閉会ということになります。閉会に当たりまして、総括としまして、青山教育長のほうからご挨拶をお願いします。

**【青山教育長】**

どうもありがとうございました。

私も最初、大綱の話をさせていただきました。また、町長のほうからいろんな思いも、教育やまちづくりについての話も聞けました。いろんな方とお出会いして、意見交流して、何を考えておられるのかという出会いを私は大事にしたいなと思っています。ここで教育委員の皆さんとも何回かお話をさせていただく中で、やっぱりいろんな提言とか、また、御指導もいただきますけども、今後とも甲良町のまちづくり、1つは子供の育成やと僕は思うんですけども、また、高齢者の多い中の、どの町でもそうですけども、高齢者がどういうふうに関わっていけるのかと。私はそこが一番大事なところかなと思います。子供だけでもできないし、高齢者だけでもできないし、そこは融合させて、いろんな施策をしたいなという思いがあります。またいろんな御意見等がありましたらお寄せいただきたいと思います。今日はありがとうございました。

**【中村総務課長】**

以上をもちまして本日の総合教育会議を閉じさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。